

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

卒業研究抄録集(看護学科) (2019.12) 令和元年度:15-16.

退院を控えた統合失調症患者の家族が抱える生活に対する不安—文献
検討より—

大原 彩歌, 中村 綾夏, 松浦 可奈

退院を控えた統合失調症患者の家族が抱える生活に対する不安—文献検討より—

大原彩歌 中村綾夏 松浦可奈
(指導：阿部修子)

〈緒言〉

厚生労働省は、2004年9月に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」(以後、ビジョンとする)を発表し、精神疾患患者が地域で生活する方針を示した。精神疾患患者が地域で生活していくためには、様々な支援が必要である。中でも精神障害を持つ外来患者の約4分の3が家族と同居している(内閣府, 2005)との報告があり、家族からの支援の重要性は高い。とりわけ統合失調症患者の家族では、患者の思考障害や幻覚、妄想といった症状がコミュニケーションの障害をきたすため、患者との関わりに混乱が生じやすい。

しかし、統合失調症患者と退院後に同居する家族の不安については報告が少ない。そこで、本研究では、統合失調症により入院中または入院経験のある患者と同居する家族の退院後の生活の不安を明確化することを目的とし、文献検討を行い、患者と家族に寄り添った退院支援を検討する。

〈方法〉

研究対象: 対象文献の条件は、ビジョンの影響を考慮し、検索期間を2005～2018年とした。そして、研究対象者が統合失調症により入院経験のある患者の家族かつ退院後患者と同居する家族であり、統合失調症患者の家族の退院後の生活に対する不安についての発言が記載されている文献とした。

まず、医中誌webでは、「原著論文」「本文あり」「会議録除く」「看護文献」を絞り込み条件として設定した。キーワード「統合失調症 家族 退院」では239件、「統合失調症 家族 思い」では141件、「統合失調症 家族 不安」では123件あり(2019年8月26日現在)、条件に合う18件を対象とした。また、A大学図書館蔵書の日本看護協会出版会「日本看護学会論文集 精神看護」2005～2010年の計6冊に掲載されている論文も同条件で2件選択し、合計で20件の文献を研究対象とした。

分析方法: 文献から統合失調症患者の家族が抱える生活に対する不安に関する発言を抽出し、意味内容を損なわないようコード化した。抽出したコードを類似性に沿ってサブカテゴリ化、カテゴリ化した。また、表現の抽出の際には3名の研究者で文献を熟読し、確認しながら行った。

倫理的配慮: 本研究は先行研究に基づく研究であり、著作権の範囲内で複写を行い、出典を明示し、その引用方法に留意し、論文中の表記方法に従った。

〈結果〉

20件の対象文献より、家族の89の発言から88のコード、24のサブカテゴリ、7のカテゴリを抽出した(表1)。以下カテゴリを【】、サブカテゴリを[]で示す。

【精神状態が安定していない患者との関わりにおける不安】は、[憎悪時に自分の対応がわからないことへの不安] [患者との関わりがストレス] など5サブカテゴリから抽出された。

【患者の精神状態が再度悪化することへの不安】は、[患者の精神状態が悪くなることへの不安]

表1 統合失調症患者家族の退院後の生活の不安

カテゴリ	サブカテゴリ(コード数)
精神状態が安定していない患者との関わりにおける不安	憎悪時に自分の対応がわからないことへの不安(8)
	患者との関わりがストレス(6)
	患者への接し方がわからず不安(5)
	患者の病気がわからない(3)
患者の精神状態が再度悪化することへの不安	患者のことが理解できない(2)
	患者の精神状態が悪くなることへの不安(8)
	患者が断薬することが心配(3)
	患者からの暴力への不安(2)
退院後、患者を受け入れて共に生活していくことへの漠然とした不安	患者の退院への安堵と再発への不安(2)
	患者との生活についての不安(5)
	患者と過ごす将来への漠然とした不安(5)
	患者の退院が適切であるか疑問である(4)
患者を支える上で自分の負担が大きいことに対する不安	患者を支えていくにあたり責任が重い(6)
	自分の相談相手がいない(2)
	患者の急な呼び出しに対応ができない(2)
	自分も患者と同じ病気を発症するのではないか(2)
	経済的な不安(1)
患者がうまく社会生活を送れないことへの不安	世話をする自分たちの体調が心配(1)
	患者の存在により、自分たちの近所・周囲との付き合いが不安(6)
	患者が社会生活において自立していけるか不安(5)
生活が自立していない患者を残して自分たちがいなくなることへの不安	自分の死後患者の生活が不安(5)
	介護者の体調が悪くなった時に患者のことが心配(2)
患者が自立した生活を送るための社会資源不足への不安	患者が働く場所がない(2)
	患者が地域で生活するための支援への不安(1)

【患者が断薬することが心配】など4サブカテゴリから抽出された。

【退院後、患者を受け入れて共に生活していくことへの漠然とした不安】は、[患者との生活についての不安] [患者と過ごす将来への漠然とした不安] など3サブカテゴリから抽出された。

【患者を支える上で自分の負担が大きいことに対する不安】は、[患者を支えていくにあたり責任が重い] [自分の相談相手がいない] など6サブカテゴリから抽出された。

【患者がうまく社会生活を送れないことへの不安】は、[患者の存在により、自分たちの近所・周囲との付き合いが不安] [患者が社会生活において自立していけるか不安] の2サブカテゴリから抽出された。

【生活が自立していない患者を残して自分たちがいなくなることへの不安】は、[自分の死後患者の生活が心配] [介護者の体調が悪くなった時に患者のことが心配] の2サブカテゴリから抽出された。

【患者が自立した生活を送るための社会資源不足への不安】は、[患者が働く場所がない] [患者が地域で生活するための支援への不安] の2サブカテゴリから抽出された。

〈考察〉

対象文献から明らかになった、統合失調症患者と同居する家族の退院後の生活の不安について、次の2つに焦点を絞り考察する。

1. 患者を受け入れて共に過ごす生活への不安

統合失調症患者と同居する家族の不安には、【精神状態が安定していない患者との関わりにおける不安】【患者の精神状態が再度悪化することへの不安】【退院後、患者を受け入れて共に生活していくことへの漠然とした不安】があった。厚生労働省(2009)は、病床の平均在院日数は短縮の傾向にあると報告しており、家族は入院期間が短縮する中で、退院をすすめられることになる。しかし、家族は患者の症状が自宅で生活できるほどに改善しているのか疑問を持ち、また、症状への対処方法を含めた十分な疾患理解が進まないまま、再度患者と共に生活することを余儀無くされる。これが退院後の生活に対し大きな不安を生じさせている原因であると推測される。

これらのことから、退院移行期には家族に対する病気の症状・経過、薬物療法の重要性、対処法の工夫など疾患理解を含め、家族が必要とする情報の提供を適切に行い、家族が患者を十分に理解して退院するための支援が必要である。

また、退院後患者との生活を続けていく上で、【患者を支える上で自分の負担が大きいことに対する不安】があった。家族には、責任感や誰にも相談できない孤独感、自身の体調の心配など、身体的・心理的にも多くの負担があった。このような状況が、家族自身の生活の質の低下をもたらしている。

岩崎(1998)は、精神疾患患者の家族において、「患者のケアを続けるためには自分自身の健康を保つことが前提で、自分自身が”逃げ込める”場所や時間が必要」と述べている。統合失調症患者の家族の支援としても、外来では家族もケアの対象であることを念頭に、常に家族の思いを捉え、家族の欲する情動的支援や心理的サポートなど、共感的な関わりを継続して行うことが、家族の負担感軽減のための重要な支援であると考えられる。また、症状悪化時など対応が困難になった場合の相談口となることが重要である。

2. 患者の社会性に対する不安

統合失調症患者の家族には、【患者がうまく社会生活を送れないことへの不安】により、焦燥感、不満感が生じていた。これらの背景には、統合失調症の症状から、患者自身が対人関係に不安を抱えていたり、周囲から敬遠されたりと対人関係に障害が生じやすいことが挙げられる。また、【患者が自立した生活を送るための社会資源不足への不安】は、地域や就労支援施設での受け入れの不足や、家族に社会資源の情報が適切に届いていない、またそれらの活用方法がわからないといった現状が続いているためだと考える。

このような患者自身の未熟な社会性や社会資源の不足が家族の【生活が自立していない患者を残して自分たちがいなくなることへの不安】を生じさせている。

川末ら(2006)によると、精神疾患患者の家族は、退院後に実際に社会資源を利用できている者は少ないが、利用した家族はほとんどが役に立ったと答えたことが報告されている。よって退院移行期には、患者に合う適切な社会資源の情報提供や活用方法を示す必要がある。また、確実に社会からの支援を受けられるよう、多職種での連携を図ることが必要である。このような継続的な支援と共に、社会資源を最大限に活用して、統合失調症患者が社会的に支えられ、暮らしていける体制を整えていくことが、家族への不安の軽減に繋がると考える。

〈結論〉

本研究の文献検討から、統合失調症患者を支える上で家族は、患者を受け入れて共に過ごす生活への不安、患者の社会性に対する不安を抱えていることが明らかとなった。それらの不安に対して適切な退院支援や地域生活での継続的な支援、社会資源に結びつける働きかけが重要であるといえる。今後の課題として、常に家族の求める情報や支援を捉え、具体的な支援体制を検討していく必要がある。

〈参考・引用文献〉

対象文献

- 荒尾小枝子, 山下隆子, 近藤和子, 他(2006): 退院後の生活に不安を抱く母親への支援, 第12回精神科リハビリテーション看護第9群28席, p329-332
- 有末汐里(2017): 初回入院患者の家族が抱える不安へのかかわり 統合失調症用パスを用いた面接による効果, 第42回日本精神科看護学会集第19群91席, p200-201
- 林英範, 島田尚美, 村上妙子(2016): 長期入院患者の退院支援における家族への心理教育の有効性 キーパーソンが親戚の事例を通して, 第41回日本精神科看護学会集第25群120席, p258-259
- 平上友成(2007): 初回入院となった患者・家族に対する教育的かかわり 不安を軽減し治療意欲を高める, 第13回精神科救急・急性期看護第1群2席, p90-93
- 一ノ山隆司, 村上満, 舟崎起代子, 他(2009): 地域で生活する精神障がい者を支える家族の思い, 第40回日本看護学会論文集 精神看護 2009年, p143-145
- 一ノ山隆司, 上野栄一, 永山くに子(2005): 統合失調症患者を支える家族の主観的負担感に関する研究—自由記載文の分析を試みて—, 第36回日本看護学会論文集 精神看護 2005年, p64-67
- 石原恵子(2009): 退院に向け家族の意思決定を支える看護 退院を受け入れることができない家族へのかかわりをとおして, 第16回専門学会Ⅱ第5群20席307, p302-306
- 板垣裕美, 佐藤友和(2008): 急性期治療病棟での家族支援を考える 家族教室参加後の家族の思い, 第15回専門学会Ⅱ第12群46席, p227-231
- 香川里美, 越田美穂子, 大西美智恵(2009): 長期入院統合失調症患者の家族が退院を受け入れる心理プロセス 同居と別居の差異, 日本看護科学会29巻4号, p88-97
- 金辺道代(2017): 退院支援を通じて表出される患者と家族の思いを考察する それぞれの思いを傾聴した支援を振り返る, 第42回日本精神科看護学会集第6群26席, p70-71
- 川添郁夫(2007): 統合失調症患者をもつ母親の対処過程, 日本看護科学会誌 Vol127, No.4, p63-71
- 森谷瑠璃子, 武田未来, 高谷新(2013): 患者家族の抱える思いと家族支援の課題 長期入院中の統合失調症患者家族との半構成的面接から, 第20回日本精神科看護学会集 専門Ⅱ9群36席, p178-182
- 西友徳(2015): 精神科訪問看護における家族支援を考える—一父親への介入による家族力動の変化—, 病院・地域精神医学 58巻1号, p27-30
- 大胡晴香, 山田麻衣, 高野文恵, 他(2014): 入院が長期化している患者への患者参加型カンファレンス—思春期の統合失調症患者を対象とした取り組み—, 第44回(平成25年度)日本看護学会論文集 精神看護 2014年, p7-10
- 大塚祐樹, 川口建一郎(2017): 長期入院患者の意思を尊重した試み—多職種と連携した退院支援—, 第42回日本精神科看護学会集第41群201席, p418-419
- 嶋田代代, 藤田暢子(2006): ニーズに基づいたチームアプローチを実践して 退院困難な患者の援助, 第12回精神科リハビリテーション看護第4群9席, p237-241
- 高橋万紀子, 板山稔, 阿部由香, 他(2014): 精神科病棟から初回退院した統合失調症患者と暮らす親の在宅移行期の体験—地域生活を継続する統合失調症患者の親のインタビュー—, 家族看護学研究第20巻第1号, p26-37
- 鷹野朋美(2018): 精神障害者家族会設立時の経緯とその活動を体験した家族のライフヒストリー, 日本看護歴史学会誌第31号, p132-145
- 恒松久美, 堀江弘瑛, 植田和恵, 他(2016): 児童思春期病棟の家族に必要な退院支援を考える, 日本精神科看護学会誌 2016vol159 No2 第56題, p269-273
- 吉井初美, 香月富士日(2006): 初発統合失調症の子を持つ母の心理, 日本精神保健看護学会誌 Vol17, No.1, p113-119

引用文献

- 岩崎弥生(1998): 精神病患者の家族の情動的負担と対処方法, 千葉大学看護部紀要, 20, p29-40
- 川末孝治, 久本美佐枝, 久留島勇司, 他(2006): 精神疾患患者の家族による社会福祉サービスの認知・情報源・利用状況の実態—家族の社会福祉サービスの利用に関するアンケート調査を通して—, 第37回日本看護学会論文集 精神看護 2006年, p87-89
- 厚生労働省(2004): 精神保健医療福祉の改革ビジョン(概要), <https://www.mhlw.go.jp/topics/2004/09/dl/tp0902-1a.pdf>, 2019/11/5 閲覧
- 厚生労働省(2009): 精神保健福祉の更なる改革に向けて, <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/09/dl/s0924-2a.pdf>, 2019/5/8 閲覧
- 内閣府(2013): 平成25年障害者白書, <https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h25hakusho/gaiyou/index-pdf.html>, 2019/5/8 閲覧